

抗インフルエンザウイルス薬 耐性株検出情報

表1. 2014/2015シーズン 抗インフルエンザ薬耐性株検出情報

最終更新日: 2015/01/16

	A(H1N1)pdm09					A(H3N2)					B			
	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	アマンタジン	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	アマンタジン	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル
耐性株数 (%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
解析株数	3	3	2	2	0	51	51	51	51	0	2	2	2	2
分離・検出報告数	13					1,249					33			

ウイルスはMUNANA基質を用いる蛍光法、real time RT-PCR allelic discrimination法、NA遺伝子シーケンス法により解析された。

表1. 2013/2014シーズン 抗インフルエンザ薬耐性株検出情報

最終更新日: 2014/12/22

	A(H1N1)pdm09					A(H3N2)					B			
	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	アマンタジン	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	アマンタジン	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル
耐性株数 (%)	105 ^a (4.1%)	105 ^a (4.1%)	0	0	43 ^b (100%)	0	0	0	0	4 ^b (100%)	0	0	0	0
解析株数	2,531	2,531	335	335	43	326	326	326	326	4	315	315	315	315
分離・検出報告数	3,495					1,736					2,969			

ウイルスはMUNANA基質を用いる蛍光法、NA-XTD基質を用いる化学発光法、real time RT-PCR allelic discrimination法、NA遺伝子シーケンス法により解析された。

^a すべての耐性株はNA蛋白にH275Y変異をもっていた。

^b すべての耐性株はM2蛋白にS31N変異をもっていた。

抗インフルエンザウイルス薬 耐性株検出情報

表1. 2012/2013シーズン 抗インフルエンザ薬耐性株検出情報

最終更新日: 2014/03/10

	A(H1N1)pdm09					A(H3N2)					B			
	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	アマンタジン	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	アマンタジン	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル
耐性株数 (%)	2 ^a (1.8%)	2 ^a (1.8%)	0	0	43 ^b (100%)	0	0	0	0	108 ^b (100%)	0	0	0	0
解析株数	111	111	105	105	43	300	300	300	300	108	337	337	337	337
分離・検出報告数	162					5,045					1,457			

ウイルスはMUNANA基質を用いる蛍光法、XTD基質を用いる化学発光法、real time RT-PCR allelic discrimination法、NA遺伝子シーケンス法により解析された。

^a すべての耐性株はNA蛋白にH275Y変異をもっていた。

^b すべての耐性株はM2蛋白にS31N変異をもっていた。

表1. 2011/2012シーズン 抗インフルエンザ薬耐性株検出情報

最終更新日: 2013/04/09

	A(H1N1)pdm09					A(H3N2)					B			
	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	アマンタジン	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	アマンタジン	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル
耐性株数 (%)	0	0	0	0	9 ^a (100%)	1 ^b (0.3%)	1 ^b (0.3%)	0	0	137 ^a (100%)	0	0	0	0
解析株数	11	11	9	9	9	300	300	300	300	137	265	265	265	265
分離・検出報告数	15					4,230					1,773			

ウイルスはMUNANA基質を用いる蛍光法、real time RT-PCR allelic discrimination法、NA遺伝子シーケンス法により解析された。

^a すべての耐性株はM2蛋白にS31N変異をもっていた。

^b 耐性株はNA蛋白にR292K変異をもっていた。

参考: 国立感染症研究所

抗インフルエンザウイルス薬 耐性株検出情報

表1. 2010/2011シーズン 抗インフルエンザ薬耐性株検出情報

最終更新日: 2013/02/06

	A(H1N1)pdm09					A(H3N2)					B			
	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	アマンタジン	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	アマンタジン	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル
耐性株数 (%)	78 ^a (2.0%)	78 ^a (2.0%)	0	0	99 ^b (100%)	1 ^c (0.7%)	1 ^c (0.7%)	0	0	61 ^b (100%)	0	0	0	0
解析株数	3,844	3,844	256	256	99	135	135	135	135	61	147	147	147	147
分離・検出報告数	4,538					2,985					1,620			

ウイルスはNA-Star基質を用いる化学発光法、MUNANA基質を用いる蛍光法、TaqMan RT-PCR法、NA遺伝子シーケンス法により解析された。

^a すべての耐性株はNA蛋白にH275Y変異をもっていた。

^b すべての耐性株はM2蛋白にS31N変異をもっていた。

^c 耐性株はNA蛋白にR292K変異をもっていた。



表1. 2009/2010シーズン 抗インフルエンザ薬耐性株検出情報

最終更新日: 2013/02/06

	A(H1N1)pdm09				A(H3N2)				B		
	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	アマンタジン	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	アマンタジン	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル
耐性株数 (%)	79 ^a (1.0%)	79 ^a (1.0%)	0	7 ^b (100%)	0	0	0	9 ^b (100%)	0	0	0
解析株数	8,145	8,145	694	7	49	49	49	9	113	113	113
分離・検出報告数	13,261				81				136		

ウイルスはNA-star基質を用いる化学発光法、NA遺伝子シーケンス法により解析された。

^a すべての耐性株はNA蛋白にH275Y変異をもっていた。

^b すべての耐性株はM2蛋白にS31N変異をもっていた。



抗インフルエンザウイルス薬に関するコクラン共同計画からの報告 について(概要)

題名:健康な成人・小児におけるインフルエンザ予防と治療のためのノイラミニダーゼ阻害薬について(レビュー)

“Neuraminidase inhibitors for preventing and treating influenza in healthy and children”

Cochrane Database of Systematic Reviews 2014, Issue 4. Art. No.: CD008965. DOI: 10.1002/14651858.CD008965.pub4

著者: Jefferson T, Jones MA, Doshi P等

主な結果:

確認された利点

- ・タミフル投与により罹病期間が16.8時間短くなる。
- ・タミフルやリレンザの予防投与により発症リスクは減少する。
- ・リレンザ投与により気管支炎発症のリスクが減少する。

確認された欠点

- ・タミフル投与により入院の有無に有意な効果は確認できない。
- ・タミフル投与により重篤なインフルエンザの合併症等の有意な減少効果は見られない。
- ・タミフル投与により吐き気や嘔吐等の副作用が起こるリスクが上昇する。

著者の結論:

タミフルとリレンザの効果は成人では限定的。利点と欠点を考慮すべき。